SHUNAN CITY

第３次 周南市まちづくり総合計画

前期基本計画

2025 ▶ 2029

概要版

令和７(2025)年3月

「哲学のあるまちづくり」を芯に積み重ねる未来への10年史

夢の世紀といわれた今世紀も4分の1が間もなく経過し、私たちは次の四半世紀を描く知恵が問われています。折しも本市では、これからの10年間、市政の芯となる「第３次まちづくり総合計画」を策定・開始をする時期と重なりました。

本計画の策定にあたりこれまでと大きく転換した点が２つあります。1つは時代認識についてです。「あらゆるものを取り巻く環境が複雑で曖昧さを増し、想定外のことが頻発する困難で不確実な時代」という考えから、「特定の時代や分野において支配的な規範となる物の見方や捉え方であるパラダイムが急激に変化する時代」として捉えている点です。２つ目は計画の体系です。縦割りを改め「市民生活を支える基盤の強化」と「まちの強み進化戦略」の2本立てにまとめたことです。

さらに、本計画が総花的で言葉の羅列に終始しないよう、一つ一つの言葉の重みを自覚することに徹しました。たとえば「まちの強み」は強みを分析して「さらに進化させるもの」「育むもの」「種をまくもの」と3段階に分類し、それぞれに最適な手法を講じることとしました。また、「進化」についても進化とは環境に適応するものが生き残ることという認識のもと、自らが変わり続けることが進化の本質という認識に立ちました。

本計画では基本理念を「将来世代へ責任あるまちづくり」とし、まちの将来像を「未来を歩む生命力満ちるまち」としました。「責任」という大変重い言葉を自らに課し、まちを生命体になぞらえ、その「生命力」を満たしていく使命感があることや、計画のサブタイトルに「約束　このまちの未来と」を掲げ、改めて「責任」を世代間の「約束」として背負い込むことなど、何としてもパラダイムシフトを乗り切ろうという強い意志が溢れています。

また、本計画の精神は、「２０５０年を乗り越えられる周南市になる」としたパーパスに通じ、まちづくりの哲学として具現化されたものになりました。哲学という言葉には「これだけはゆるがせない、これを外したら自己でなくなる」という思いで貫く行動も含まれるといいます。「現世代は無論のこと、将来世代の幸福とまちの未来を慮り、責任あるまちづくりを進める」という考えは、本市の「ゆるがせないもの、外せないもの」であり、「まちづくりの哲学」として十分な重みと内容が備わるものと考えます。

これより10年間、「哲学のあるまちづくり」を芯として誇りあるまちづくりを進め、市民の皆様と心を通わせ、本市のこれからの10年史を綴ってまいりたいと思います。

市民の皆様をはじめ本市に関わりのあるすべての皆様のご理解、ご協力を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

むすびに、本計画策定にあたりご協力くださいましたすべての皆様に、厚く御礼申し上げます。

令和7年3月

周南市長

藤井 律子

まちづくりの基本理念

将来世代へ 責任あるまちづくり

驚異的な科学技術の進展は夢物語であった世界を実現しつつあり、そのパワーは人々の暮らしや考え方に影響を与え、多様であることの価値や、個の尊厳と幸せの追求を堂々と語ることのできる時代を切り拓いています。

一方で人口減少が急激に進み、出生数の激減、止まらない流出人口、高齢化率の上昇という難局に直面しています。また、切迫する気候変動対策では、脱炭素社会への目標年次を繰り上げるなど早急な成果の積み重ねが求められています。

本理念は本市の最上位計画を貫くものとして、また、市政推進の価値基準となるものとして、現世代の幸せの追求のみならず、将来世代に引き渡すまちの姿を意識して織り込むものです。

現世代と将来世代の幸せを慮る市政の信念を「責任」という言葉に置き換え、これからのまちづくりの指針とします。この誠実な考えや姿勢はやがて本市の風土となり、シビックプライドの涵養に広く役立つことと期待されます。

本理念は世代を超えて幸せの礎となり、持続可能なまちをめざす市民・企業・行政で共有する「まちづくりの価値」として掲げるものです。

まちの将来像

未来を歩む 生命力 満ちるまち

「まちは生きている」という言葉に象徴されるように、まちには命があり、脈打つ生命体として語られます。

元気、活気、躍動、落ち着き、風情など、醸し出される雰囲気はまちの実像であり、あたかも生命力が宿っているかのように私たちの感性に響いてきます。

この生命力は、まちの躍進や凋落に大きく関わるものです。

それは外部から分け与えられたり、真似たり、奪い取ることで養われる力ではありません。

徹底した時代認識のもとでまちの強みを進化させ、弱みを強みに転じていく努力で培われてくるものです。

まちの将来像を実現していくためには、「進化戦略」と「基盤強化」という視点が大変重要です。

「進化戦略」とは、時代の変化を読み取りながら、まちの強みとなる「種をまき」、まちの持つ強みを「育み」、そしてさらに「進化」に向けて取り組んでいくことです。

「基盤強化」とは「市民生活を支える基盤」であり、安全安心をはじめ市民生活になくてはならないものをさらに整備していくことです。

こうした「進化戦略」と「基盤強化」を推進することで、まちの生命力に刺激を与え、活力を充足させていきます。

まちには命があり、まちは幸せをめざして歩み続ける存在です。

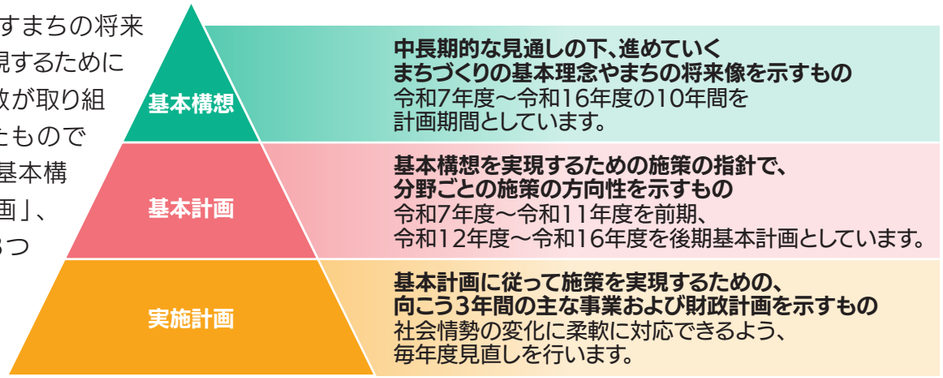
本計画におけるまちの将来像は現世代と将来世代のつながりを第一に描いています。

将来世代の幸せもまちの生命力に支えられます。

私たちには時代の潮流を読んだ生命力の涵養と将来世代を慮る力が求められています。

まちづくり総合計画とは

10年後の目指すまちの将来像と、それを実現するために市民・企業・行政が取り組むことを書いたものです。本計画は、「基本構想」、「基本計画」、「実施計画」の3つで構成します。



社会の動きを踏まえて

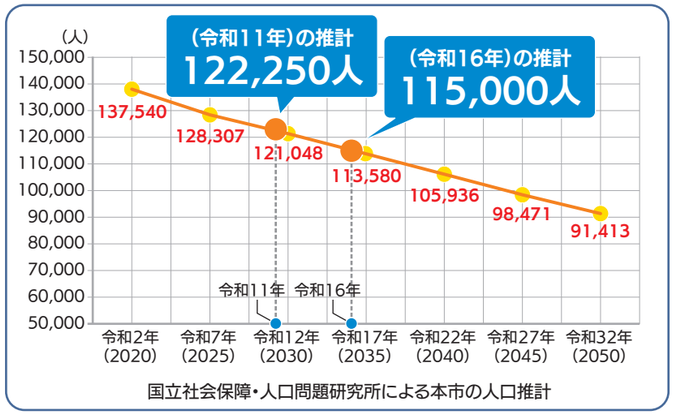
人口減少が急激に進む現代社会では、少子化・高齢化の進行をはじめ、労働力の不足、近年の気候変動の影響に伴う防災意識の高まりや市民の価値観やライフスタイルの多様化など、地方自治体を取り巻く環境が大きく変化しています。

さらに、国際社会の共通目標であるSDGsの推進、加速するカーボンニュートラルに向けた取組、デジタル技術の進展などの政策課題への対応も重要です。

このように多様化・複雑化する課題に対し、市民をはじめ、企業や団体など、幅広い多様な主体と連携し、計画的にまちづくりを進めていくことの必要性は、これまで以上に高まっています。

市を取り巻く社会情勢

- 危機的な人口減少と少子化・高齢化
- 加速するカーボンニュートラルに向けた取組
- 急進展するデジタルが支える社会
- 多様性を増す価値観やライフスタイル
- 高まる防災減災意識
- 注目されるSDGsの次
- 流動化する国勢情勢と社会・経済情勢



国立社会保障・人口問題研究所による本市の人口推計

まちづくりの指標

国立社会保障・人口問題研究所（以下、社人研）によると、本市の人口は令和32（2050）年に約9万1,000人まで減少すると推計されています。こうした状況の中、さまざまな施策を展開して人口減少にあらがい、社人研の推計値を少しでも上回るとともに、人口減少社会でも、「住みよい・住み続けたい」と思えるまちをめざすため、次の2つの指標を掲げます。

人口（定住人口）

137,540人（基準値（2020年度））▶ 122,500人（目標値（2029年度））

住みよい・住み続けたいと思う市民の割合

73.6（現状値（2023年度））▶ 75%（目標値（2029年度））

めざすまちの姿

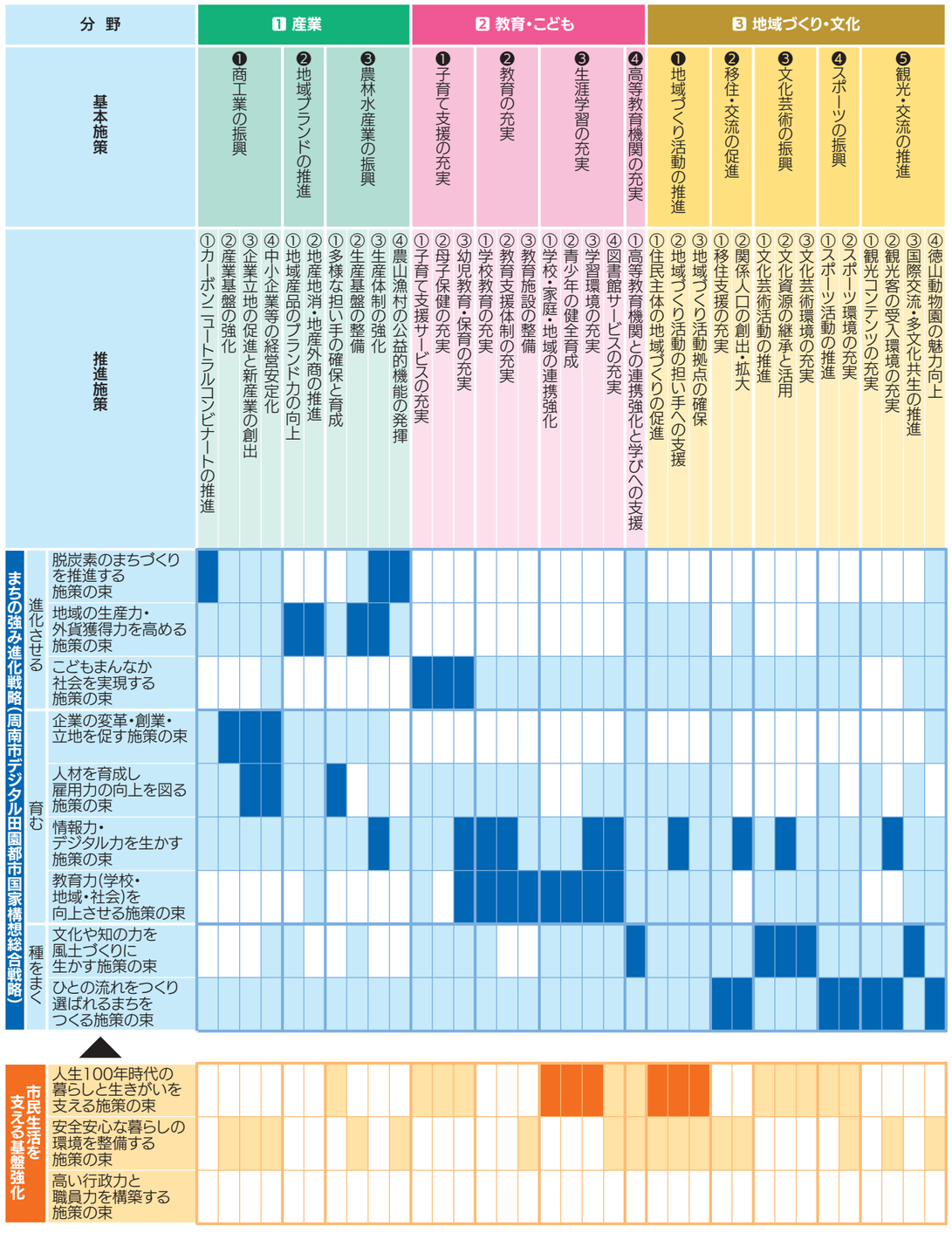
「将来世代へ　責任あるまちづくり」の基本理念を根底に、現世代と将来世代の幸せを常に考え、まちの強みをつくり、そして進化させながら、まちの将来像である**「未来を歩む　生命力　満ちるまち」**をめざします。

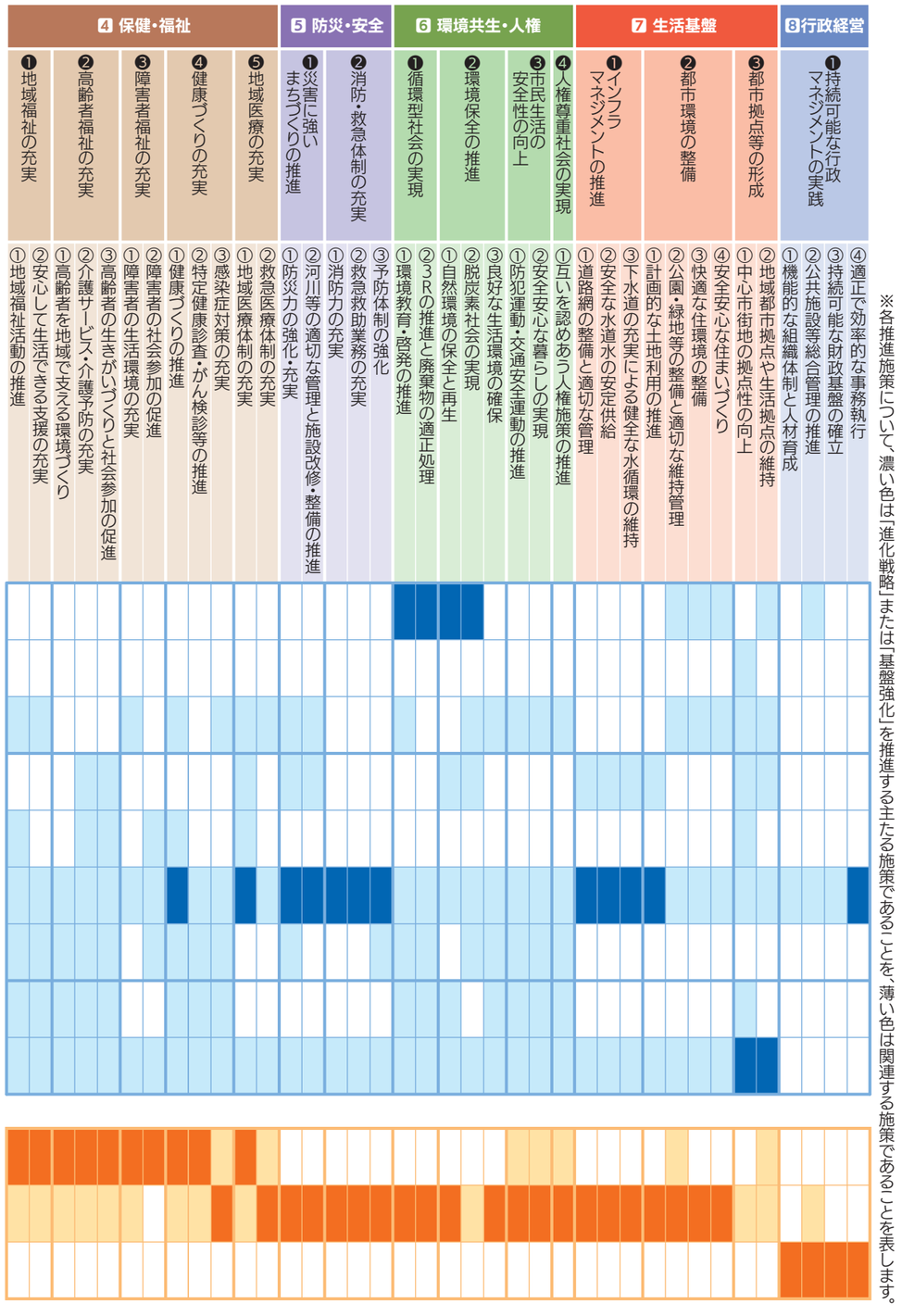
前期基本計画では、まちづくりの各分野に掲げる施策を次の2つの大きな方向性に整理し、共通の目的や使命を持つものを「施策の束」として連携させることで相乗効果を高めていきます。

まちの強み進化戦略　まちの将来像へアプローチするための本市独自の手法であり、強みごとに、「進化させる」「育む」「種をまく」の3つに分類し、取組を進め、次のステージへ移行させていきます。

市民生活を支える基盤強化　道路や上下水道などのインフラや、保健・福祉、防災・安全など、市民の日常生活になくてはならない多岐にわたる分野を指します。満足度の高い先進的な行政サービスを提供することで、市民生活を支える基盤を強化していきます。

前期基本計画の体系





※各推進施策について、濃い色は「進化戦略」または「基盤強化」を推進する主たる施策であることを、薄い色は関連する施策であることを表します。

まちの強みを進化させる戦略

まちの強みを「進化させる」戦略では、現在の取組を更に進化させ、本市の群を抜く強みとするために、以下の3つを施策の束として戦略的に取組を展開します。

脱炭素のまちづくりを推進する施策の束

周南コンビナートの産業競争力の維持と2050年カーボンニュートラルの実現に向け、コンビナート企業や市、国・県等の関係機関が連携して実施する「周南カーボンニュートラルコンビナート構想及びロードマップ」に基づく取組を推進していきます。

市民・企業・行政の三者が相互に連携し、地球温暖化防止に貢献する脱炭素のまちづくりを意欲的に進めていきます。

主な推進施策

- カーボンニュートラルコンビナートの推進
- 農山漁村の公益的機能の発揮
- 脱炭素社会の実現

周南コンビナート

地域の生産力・外貨獲得力を高める施策の束

農林水産業において、生産性・収益性の向上、事業継承、生産基盤の整備や6次産業化の推進を図ります。

また、「道の駅ソレーネ周南」の機能拡充により、関連する農林漁業者、食に関わる事業者や団体など、多くの分野での意識改革や取組の進化につなげます。

しゅうなんブランド

主な推進施策

- 地域産品のブランド力の向上
- 地産地消・地産外商の推進
- 生産基盤の整備
- 生産体制の強化

道の駅ソレーネ周南

こどもまんなか社会を実現する施策の束

結婚、妊娠・出産、子育てに加え、子育て支援の担い手の確保や若者を中心とした定住促進、出生数の増加に関することなど、こどもまんなか社会の実現に向けて多様な施策展開を図ります。

市民・企業・行政の三者が連携して子育てを応援する地域風土の醸成に努め、全てのこどもが将来にわたって幸せな生活を送ることができる「こどもがまんなかのまちづくり」を目指していきます。

主な推進施策

- 子育て支援サービスの充実
- 母子保健の充実
- 幼児教育・保育の充実

わかやますくすくセンター

子育て交流センターぞうさんの家

まちの強みを育む戦略

まちの強みを「育む」戦略では、潜在する問題の改善や見直しを図りつつ、進化に向けた意欲的な「風土・環境」づくりが重要です。そのうえで、以下の4つの施策の束を戦略的に展開します。

企業の変革・創業・立地を促す施策の束

本市の経済を牽引するコンビナートの持続的な発展を図るために、徳山下松港国際物流ターミナル整備事業の早期完成や、アンモニア・水素など次世代エネルギーの受入供給拠点としての整備を推進します。また、製造業を中心とした支援処置により雇用の創出や企業誘致に向けた取組を展開します。

主な推進施策

- 産業基盤の強化
- 企業立地の促進と新産業の創出

徳山下松港の整備の状況

人材を育成し雇用力の向上を図る施策の束

市内における事業所の人材確保や求職者の就労を促進するため、事業者と連携して市内中小企業等に就職した若者に対する奨学金の返還支援等を進めていきます。

また、農林水産業においては、国や県等と連携してUJIターン就農等を支援するとともに、新規就業者の定着を促進し、多様な担い手の確保・育成に取り組みます。

主な推進施策

- 中小企業等の経営安定化
- 多様な担い手の確保と育成

多様な担い手の確保と育成

情報力・デジタル力を生かす施策の束

市民サービスと生産性を向上させるために、行政手続きのオンライン化に加え、更なるデジタル化に向けた取組の強化を図るほか、すべての市民がデジタル技術の恩恵を受けられるよう、これまで以上に利便性の高い暮らしの実現に向けて、様々な施策を展開していきます。

主な推進施策

- 生産体制の強化
- 幼児教育・保育の充実
- 学校教育の充実
- 教育支援体制の充実
- 学習環境の充実
- 図書館サービスの充実
- 地域づくり活動の担い手への支援
- 関係人口の創出・拡大
- 文化資源の継承と活用
- 観光客の受入環境の充実
- 健康づくりの推進
- 地域医療体制の充実
- 防災力の強化・充実
- 河川等の適切な管理と施設改修・整備の推進
- 消防力の充実
- 救急救助業務の充実
- 予防体制の強化
- 道路網の整備と適切な管理
- 安全な水道水の安定供給
- 下水道の充実による健全な水循環の維持
- 計画的な土地利用の推進
- 適正で効率的な事務執行

教育力(学校・地域・社会)を向上させる施策の束

児童生徒が安全安心に学ぶことができる教育設備、ICTや教育データを活用できる環境の整備を行うとともに、学校・家庭・地域が協働し、こどもの健全な育成や教育活動、学校運営の更なる充実を図ります。

また、生涯学習の拠点である学び・交流プラザを中心に、市民センターや周南公立大学等と連携し、生涯学習活動の機会を提供し、市民の自主的・継続的な学習活動を支援します。

主な推進施策

- 学校教育の充実
- 教育支援体制の充実
- 教育施設の設備
- 学校・家庭・地域の連携強化
- 青少年の健全育成
- 学習環境の充実
- 図書館サービスの充実

クリスマスツリーピザづくり
(クリスマスまなびマルシェ)

ICTを活用した授業の様子

まちの強みとなる種をまく戦略

まちの強みとなる「種をまく」戦略では、将来に向け、品格と誇りのある風土づくりを主眼としています。2つの施策の束に集約して戦略的に種をまき育てていきます。

文化や知の力を風土づくりに生かす施策の束

地域の文化芸術の水準を上げることに加え、文化芸術に触れる機会に恵まれ、地域文化の継承がなされ、知識や学ぶことが尊重される風土づくりを進めていきます。

また、本市の「知の力」の拠点となる周南公立大学や徳山工業高等専門学校等の高等教育機関との連携を強化し、地域の課題解決や新たな価値の創造を図っていきます。

主な推進施策

- 高等教育機関との連携強化と学びへの支援
- 文化芸術活動の推進
- 文化資源の継承と活用
- 文化芸術環境の充実
- 国際交流・多文化共生の推進

周南公立大学のキャンパス

周南公立大学生・徳山高専生によるシニアICT相談会

三作神楽

八代に渡来したナベヅル

ひとの流れをつくり選ばれるまちをつくる施策の束

公共交通の確保や日常生活の利便性・快適性の向上、中心市街地の活性化、スポーツ環境の充実や徳山動物園のリニューアル等による賑わいの創出に傾注していきます。

こうした、本市のあらゆる一生懸命さを、市内外に精力的に発信することでまちの好感度を高め、関係人口及び活動人口の創出・拡大とともに、本市を選んで移住してくる方の増加に結びつけていきます。

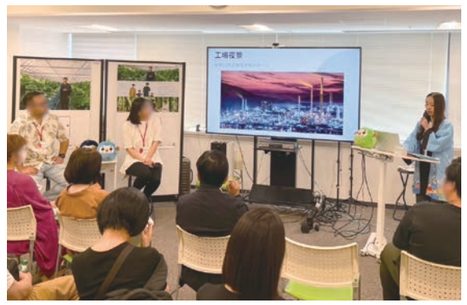
主な推進施策

- 移住支援の充実
- 関係人口の創出・拡大
- スポーツ活動の推進
- スポーツ環境の充実
- 観光コンテンツの充実
- 観光客の受入環境の充実
- 徳山動物園の魅力向上
- 中心市街地の拠点性の向上
- 地域都市拠点や生活拠点の維持

徳山駅前賑わい交流施設

ゼオンアリーナ周南

フルーツ狩り（須金地区）



移住フェアでのPR・相談対応

市民生活を支える基盤強化

「市民生活を支える基盤」とは、道路や上下水道などのインフラや保健・福祉、防災・安全など、市民生活になくてはならないものであり、それを支える施策群を指します。3つの施策の束として市民の絶対的信頼に応えてまいります。

人生100年時代の暮らしと生きがいを支える施策の束

地域福祉を担う人づくりや支え合いの地域づくりに取り組むとともに、医療・介護・予防・住まいなど包括的な支援体制の充実を図り、健康寿命の延伸に向けた取組や、誰もが住み慣れた地域で、自分らしく安心して、いきいきと健康に暮らせるまちづくりを進めます。

主な推進施策

- 住民主体の地域づくりの促進
- 地域づくり活動の担い手への支援
- 地域づくり活動拠点の確保
- 地域福祉活動の推進
- 安心して生活できる支援の充実
- 高齢者を地域で支える環境づくり
- 介護サービス・介護予防の充実
- 高齢者の生きがいづくりと社会参加の促進
- 障害者の生活環境の充実
- 障害者の社会参加の促進
- 健康づくりの推進
- 特定健康診査・がん検診等の推進
- 地域医療体制の充実

はみがきチャレンジ

高い行政力と職員力を構築する施策の束

加速度的に変化する社会情勢の中で、多様な市民ニーズに応えるため、各施策を力強く推進する行政力とそれを実現する職員力の向上を図ります。

また、持続可能な質の高い行政サービスを提供していくため、限られた行政資源（ヒト、モノ、カネ、情報）を最適にマネジメントしていきます。

主な推進施策

- 機能的な組織体制と人材育成
- 公共施設等総合管理の推進
- 持続可能な財政基盤の確立
- 適正で効率的な事務執行

安全安心な暮らしの環境を整備する施策の束

インフラの整備等のハード対策とともに防災ＤＸ等のソフト対策に取り組み、日常から防災・減災意識の機運を涵養します。

また、市民生活の安全安心を守るため、消防・救急体制の充実、感染症等への適切な対応等に取り組みます。

交通安全運動期間中の様子

エコフェスタ（ワークショップ）

Web版ハザードマップ

360度カメラによる橋の点検

準用河川隅田川の護岸整備状況

主な推進施策

- 感染症対策の充実
- 救急医療体制の充実
- 防災力の強化・充実
- 河川等の適切な管理と施設改修・整備の推進
- 消防力の充実
- 救急救助業務の充実
- 予防体制の強化
- 環境教育・啓発の推進
- ３Ｒの推進と廃棄物の適正処理
- 自然環境の保全と再生
- 良好な生活環境の確保
- 防犯運動・交通安全運動の推進
- 安全安心な暮らしの実現
- 互いを認めあう人権施策の推進
- 道路網の整備と適切な管理
- 安全な水道水の安定供給
- 下水道の充実による健全な水循環の維持
- 計画的な土地利用の推進
- 公園・緑地等の整備と適切な維持管理
- 快適な住環境の整備
- 安全安心な住まいづくり

約束　このまちの未来と

第３次
周南市まちづくり総合計画
前期基本計画 概要版

令和７(2025)年３月

編集・発行 周南市
〒745-8655 山口県周南市岐山通１丁目１番地
0834-22-8478
kikaku@city.shunan.lg.jp
http://www.city.shunan.lg.jp/